

窓辺

わたなべ ひでひこ
渡辺 英彦

ホスピタリティー

富士宮やきそば学会の活動が軌道に乗り始めたころ、一通の封書が届いた。富士宮市に市外から焼きそばを食べに来たご婦人からだった。

「最近では富士宮の焼きそばがテレビなどで盛んに取り上げられているので来てみたが、商店街で尋ねても、焼きそば屋ではないから関係ないと言われ、店に電話をすれば休み時間だから後にしろと言われ、やっとたどり着けば非常に愛想が悪く、もう二度と富士宮には来ない」という内容だった。

腹が立った。もちろん、このご婦人に対してではない。対応した富士宮側の「もてなしの心」ホスピタリティー」の欠如に対してである。私はそのご婦人に「敗者復活戦をお願いしたい」と倍の長さの返事を書いた。数日後、私はご婦人の一行を案内してやきそばを

食べ、お茶なども振る舞い、精いっぱいのもてなしをさせていた。ご婦人は最後に笑顔で「必ずまた来ます」と言ってくれました。

たとえどんな美味いものがあるろうと、ホスピタリティーを欠いている店に私は行かない。まちだって同じだ。市民が来訪者に対してホスピタリティーを持つて接し、精神的満足感を与えることによって、リピーターが生まれる。

またしてもおやしギャグで恐縮だが、富士山、伊豆などを擁し、観光立県を目指す「茶どころ静岡」においては、お茶でもてなす静岡という意味で、「ホスピタリティー」と表現したい。「ホスピタリティー」の設置を石川知事

（富士宮やきそば学会長）